

令和 6 年度 教学改善の事例の紹介

実施内容:IR データ「学部授業成績結果」を踏まえた課題等の確認及び改善計画の立案

実施期間:令和 6 年 7 月 4 日～9 月 10 日

実施対象:各学科・教室

本取組のねらい

前年度の学部授業実施結果を客観的に分析し、教育の質向上を図ることを目的としています。具体的には、各学科・部門において授業運営上の現状を正確に把握し、課題を明確に定義することで、根拠に基づいた改善策の立案・実行を目指します。

また、チェックポイントを設定することにより、これまでの改善経緯を体系的に整理し、より効果的な改善サイクルを確立いたします。

電気学科

現状分析と課題定義

プログラミング科目の合格率課題

「プログラミング 1 及び演習」の合格率が若干低い状況

電気回路科目の深刻な課題

「電気回路 I 及び演習」の合格率が著しく低い

選択科目の習得率低下

「電気機器システム」「制御工学」の習得率が低い

緊急時対応の不備

専任教員の休職に対する備えが不十分

1 年生留年学生への対応課題

再履修受講が困難な学生の増加

令和 7 年度改善計画

- ➡再履修クラスの継続的運用とフォロー体制の維持
- ➡担当教員の調整
- ➡代理教員制度の整備によるリスク管理強化
- ➡1 年次進級条件の見直し検討

応用化学科

現状分析と課題定義

専攻間の研究室配属制限

応用化学専攻とバイオ環境化学専攻それぞれ 4 グループずつに配属が限定され、学生の選択肢が制約

3 年後期科目の履修者減少

卒業要件充足により履修を控える傾向、特に成績優秀者の早期単位充足

令和 7 年度改善計画

- ➡3 年生後期演習科目の統一(「応用化学演習」への一本化)
- ➡全 8 研究グループへの選択肢拡大の段階的实施
- ➡履修系統図を活用したガイダンス強化
- ➡両専攻開講科目の検討

機械学科

現状分析と課題定義

専攻間格差

機械創造工学専攻 1 年「機械基礎力学」、3 年「伝熱工学」の修得率が機械工学専攻より低い

履修者数の偏り

機械構造工学専攻 3 年「センサ・アクチュエータ工学」の受講者数が少ない

新カリキュラムの検証必要性

「電気・電子回路」統合の効果測定が必要

教員間連携不足

科目系統における内容・教授法の整合性に課題

令和 7 年度改善計画

- ➡機械創造工学専攻 1 年「機械基礎力学」の再履修クラス設置と内容改善
- ➡専攻間での教員意見交換促進
- ➡FD サロンによる教員間情報共有の場設置
- ➡新カリキュラム効果の継続検証

土木工学科

現状分析と課題定義

基礎科目の修得率課題

建設基礎数学の修得率が低い

基礎教育科目格差

物理学(波動)で常勤・非常勤間の修得率に著しい差あり

履修行動の問題

GPA 低下の懸念による選択科目の履修回避

時間割配置の偏り

選択科目と必修科目のバランス不良

令和 7 年度改善計画

- ➡建設基礎数学と材料力学の講義内容改善
- ➡入学前教育の拡充検討
- ➡基礎教育センターとの連携強化による評価差是正
- ➡時間割のバランス改善

建築学科

現状分析と課題定義

4 年生科目の履修者激減

卒業要件充足により履修者数が大幅減少

修得率・GPA 低下

2・3 年生対象 9 科目の修得率及び科目 GPA が低下

学生数過多の影響

定員より多い学生数による教育負担増大

令和 7 年度改善計画

➡2025 年度カリキュラム改訂で 4 年生科目基本廃止

➡研究室指導への集中化

➡学生数正常化による教育環境改善の期待

➡成績評価基準の慎重な運用

経営学科(経営情報システム専攻)

現状分析と課題定義

成績評価基準の不統一

科目間で「秀」評価に大きなばらつき

数学関連科目の習得率低下

基礎数学の知識不足による学修成果の低下

上級生向け科目の問題

履修者数の減少と GPA 低下

優秀学生への対応不足

発展的課題プログラムの不備

令和 7 年度改善計画

➡成績評価基準の標準化推進

➡非常勤教員の FD 活動参加促進

➡数学教育の弱点克服プログラム継続

➡上級生科目の実践的内容強化

➡優秀学生向け高度課題機会の提供

経営学科(スポーツマネジメント専攻)

現状分析と課題定義

データサイエンス科目の学力差

極少数上位層と多数下位層の二極化

特定科目の履修者激減

月曜後期科目でクラブ活動との競合

極端な評価分布

産業法規の修得率及び科目 GPA が低下

令和 7 年度改善計画

➡データサイエンス科目担当者間の継続協議

➡月曜 5 限科目配置の見直し検討

➡経営情報システム専攻との比較による改善方策検討

➡成績分布の適正化

情報科学科(コンピュータシステム専攻)

現状分析と課題定義

Q 評価基準の不統一

シラバスへの反映不十分

キャリア教育科目の見直し必要性

受講者数の減少と内容の再検討

演習科目への関心低下

3 年次選択必修演習の重要性の認識不足

合格基準の検証必要性

修得率が高い科目の評価の適正性

令和 7 年度改善計画

➡シラバスへの Q 評価基準明記推進

➡区分間差の継続観測

➡低 GPA 科目の改善促進

➡キャリア教育科目群の構成見直し

➡合格基準・判定方法の現状把握

情報科学科(メディア情報専攻)

現状分析と課題定義

前年度改善策の成果

F/Q 判断基準統一、科目 GPA・修得率改善を達成

新たな課題の出現

履修者数の減少

評価分布の極端化

一部科目で修得率・GPA が著しく高い状況

令和 7 年度改善計画

➡シラバスへの Q 評価基準反映継続

➡履修者少数科目の開講時期検討

➡卒業研究・制作のあり方検討

➡専攻間差の状況確認

➡科目系統図に基づく教育内容見直し

自然科学教室(物理)

現状分析と課題定義

深刻な修得率低下

防災土木工学専攻 2 年「物理学(波動)」での修得率の異常事態

習熟度別クラスの逆転現象

上位・下位クラスの成績逆転が散見

評価の極端化

物理実験で GPA が著しく高い

令和 7 年度改善計画

- ➡再履修クラス担当者との連携強化による改善
- ➡GPA2.0 を参考とした成績設定の標準化
- ➡習熟度別クラス成績逆転の防止策実施
- ➡物理実験評価基準の相対的厳格化
- ➡絶対評価の適正性確保

自然科学教室(数学)

習熟度別クラス逆転現象の改善

前年度より減少傾向だが完全解消には至らず

成績分布調整の成果

極端な差を持つ科目の解消達成

履修者数の不均衡

一部科目で受講者過多・過少の問題

令和 7 年度改善計画

- ➡「秀」評価を受講者の 1 割程度に目安設定
- ➡履修促進のための専攻・チューター連携強化
- ➡「確率・統計」の 2 クラス分割実施(令和 7 年度)
- ➡「幾何学」担当教員変更による改善期待(2025 年度)

総合教育科目(英語)

現状分析と課題定義

成績評価の平準化達成

共通教材使用と非常勤講師ガイダンスにより大幅改善

評価方法の移行期課題

コミュニケーション・イングリッシュ C/D の評価法統一過程

必修科目の修得率

適正範囲内だが初年次特有の問題存在

受講者数調整

少人数開講の継続的改善

令和 7 年度改善計画

- ➡成績評価平準化の継続監視
- ➡プロジェクト型学習への統一推進
- ➡外部機関評価の導入(2024 年度後期)
- ➡初年次サポート強化のための学科連携
- ➡開講数の慎重な調整継続

総合教育科目(第二外国語)

現状分析と課題定義

中国語の統一化達成

教材・シラバス・採点基準の統一による GPA の安定化

新科目の試行

「中国のことばと文化」「フランスのことばと文化」の方向性検討

評価方法の検討

語学と文化のバランス調整が課題

令和 7 年度改善計画

- ➡「中国のことばと文化」の語学・文化バランス最適化
- ➡「フランスのことばと文化」の期末試験統一化
- ➡「ドイツのことばと文化」の語学・文化バランス最適化
- ➡担当教員の個性を活かしつつ、クラス間の偏りを防止

総合教育科目(その他)

現状分析と課題定義

科目間格差の限定的発生

ものづくり系で若干のばらつき、法律系で極端な修得率の低下

抽選科目の需給調整

受講希望者の受け入れ限界

評価方法の多様性

日本語リテラシーでのばらつき要因不明

令和 7 年度改善計画

- ➡抽選科目の定員充足率確認による科目配置調整
- ➡ものづくり系科目の継続的格差監視
- ➡担当非常勤講師への改善指導実施
- ➡健康・スポーツ科学実習の現行体制維持
- ➡社会ニーズを踏まえた内容精査

総合教育科目(教職)

現状分析と課題定義

段階的評価システム

1-2 年次から教育実習まで体系的な単位認定体制

キャンパス間格差

八草・自由が丘間で修得率・成績分布に差異

特定科目の評価異常

非常勤講師担当科目で「秀」評価が過度に高い

令和 7 年度改善計画

- ➡評価の正常化
- ➡世代交代の推進
- ➡成績分布の適正化実現